日本財団
2023 年度　体験活動
報告書

フリースクール地球子屋
拠点名「地球子屋」

作成者　加藤　千尋

作成日　2024 年 7 月 31 日

はじめに

フリースクール地球子屋は、日本財団からの支援を受けたことでコミュニティモデルとして子どもの居場所の価値について追及するきっかけを頂いた。
23 年度は、不登校に限らず子どもの居場所として様々な状態の子どもたちを受け入れ、子どもたちとの関係や活動を見直してこれまで以上の成果を生み出すことができた。改めて支援いただいた日本財団そして熊本市には感謝の意を表する。

子どもの居場所の中での活動は、生活習慣を確立する場であり、疑似家族のような様々な世代が集い自分の生きる道筋を見いだしていくような場であり、社会生活上のルールやマナーを身につける場であり、その子の持っている力・能力を引き出していく場であり、様々なことについて試行錯誤をする場など総合的に人を育てていく場なのだと感じている。そこは社会の一部であり、常に社会とのつながりを感じられる場であることが大切で、だからこそ子どもたちは社会の一員としての自覚をもち、社会的自立に向かっていけると確信している。

今年度の体験活動は、ニュースポーツ「フラッグハント」による子ども同士の交流やコミュニティ意識を育てるものにした。当法人がコミュニティモデルを目指しているという面の他に子育ての最終的な目的は社会的な自立と昨今言われているが、その意味するところは家族から別の依存先を見いだしていくことの他ならないため、自分自身が誰とどこでともに生きていくかという感覚をコミュニティ意識と定義し、そのような感覚の醸成には子ども期にどのような体験が必要かという問いの結論を検証するために実施した。

この報告書は、様々な人々とのつながりの記録であり、それがコミュニティ・モデルとしての子どもの居場所の活動であると考えている。
本報告書が他拠点のみなさんの参考になれば幸いである。

フリースクール地球子屋
代表　加藤千尋

〇フラッグハントについて

フラッグハントは、日本フラッグハント協会が考案したニュースポーツである。

野外・屋内のいずれも競技は可能であるが、風や砂の影響を受けるため屋内の方が望ましいとされる。

競技の準備としては、プレイ中に身を隠す１ｍｘ１ｍの障害物プラスチック段ボール）を約 50 個配置する。プラスチック段ボールは、非常に耐久性に優れた素材であるが切り端部分は鋭く手をかければ切れる可能性があるため、１ｍ四方をガムテープでカバーする。

毎回、配置場所を変えることで飽きることなく、また必勝パターンなど生み出すことなく、競技を続けられる。

〇フラッグハントプレイ方法

フラッグハントとは、２チームに分かれ、対戦チームのプレイヤーを競技用銃で射撃しヒットさせプレイ人数を減らしつつ、相手陣地にあるフラッグを奪取することを目的としている。大人から子どもまで誰でも参加可能で、フィールドにある立方体の障害物は会場ごとに場所が変化する。

参加した子どもと保護者がチームに分かれ、作戦を立てながら相手チームの旗を取ることが目的のフラッグハントは運動量も豊富でありながらプレイに夢中になれる要素がある。

お互い初対面にも関わらず、チームでよく話し合い、友だちづくりができた点やともに考え作戦を立てるなどチームづくりの基本を体験することができた。参加した子どもたち、保護者の方も非常に満足度は高い。

１）レクリエーションスポーツ「フラッグハント交流会」定例開催

レクリエーションスポーツ「フラッグハント」は、月１回程度実施した。子どもも大人も楽しめるようなフラッグハントの魅力を積極的にアピールし、スポーツの勝敗ではなく、チーム内でコミュニケーションをよくとること、身体を動かすこと、旗（フラッグ）を取るという 1 試合ごとに集中して楽しむこととした。

場所は、熊本県民総合運動公園体育館、熊本市東部交流センターなど施設を利用。

2023 年 7 月 30 日	熊本県民総合運動公園体育館	参加者 32 人
8 月 27 日	熊本県民総合運動公園体育館	参加者 35 人
9 月 30 日	熊本市東部交流センター	参加者 27 人
10 月 15 日	熊本市東部交流センター	参加者 31 人
11 月 23 日	熊本県民総合運動公園体育館	参加者 29 人
12 月 16 日	熊本県民総合運動公園体育館	参加者 22 人
2024 年 1 月 21 日	熊本県民総合運動公園体育館	参加者 24 人
2 月 10 日	熊本市東部交流センター	参加者 25 人
3 月 20 日	熊本市東部交流センター	参加者 24 人
4 月 20 日	熊本市東部交流センター	参加者 27 人
5 月 25 日	熊本県民総合運動公園体育館	参加者 23 人
6 月 30 日	熊本県民総合運動公園体育館	参加者 21 人

地球子屋の子どもがフラッグハントの準備を午前中から熱心に取り組むことができた。また新規の子どもに対してフラッグハントの競技方法やチームでの作戦の立て方など丁寧に伝え、実際に競技においてもリーダーシップを発揮するなどして地域の子どもとの交流が子どもたち主体でできた。

定例的な開催によって毎回楽しみに参加する子どもやご家族が増えてきた。そのような子どもや家族は、地球子屋の子どもとも距離感が近くなり、準備や後片付けに積極的に協力する姿勢がみられるようになっていった。こういった側面からコミュニティ意識が醸成していったと思われる。

実際に告知用に作成したチラシ（一部）

実際の様子

チームを組んで、試合ごとにふりかえりによるコミュニケーションをとって自然と交流が進んだ

作戦通りになるとは限らないのがフラッグハントの面白いところ。わずかなスキマから相手を狙い、人数を減らしていく

試合が終わったら、みんな仲間意識が生まれ、自然に会話やスキンシップが生まれる。こういったところからコミュニティ意識が生まれていく

２）レクリエーションスポーツ「フラッグハント交流会」県北地域初開催

2023 年 8 月 4 日大津町運動公園総合体育館にて開催することができた。町内の子ども 19 人、大人 4 人と地球子屋の子どもやフラッグハントの興味のある子ども 9 人、大人 3 人が参加しフラッグハント交流会を開催した。
大津町の子ども第三の居場所拠点「COCO-Z」の子どもたちやその地域の子どもたちの参加があった。

地球子屋の子どもがフラッグハントの準備を午前中から熱心に取り組むことができた。また初めての体験となる大津町の子どもに対してフラッグハントの競技方法やチームでの作戦の立て方など丁寧に伝え、実際に競技においてもリーダーシップを発揮するなどして地域の子どもとの交流が子どもたち主体でできた。

３）レクリエーションスポーツ「フラッグハント交流会」森林学習館初開催

3 月 31 日に熊本市森林学習館の多目的室にて開催した。熊本市、近隣市町、県外からも参加者が集まり盛況となった。参加者 29 人、大人 2 人、地球子屋とフラッグハントに関心のある子ども参加者 6 人、大人 3 人。

フラッグハントの競技説明、練習、チーム編成、競技、ふりかえりのプログラム。春休みで様々な地域から参加があり、初めて出会う子どもたちでも交流ができた。

自然豊かな金峰山付近にある森林学習館には、熊本市内外、一部県外からも集まり、フラッグハントを通して交流することができた。

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

子ども 第三の居場所

日本財団助成

事業名
熊本県熊本市における「子ども第三の居場所」(E)コミュニティモデルにおける子どもへの体験機会の提供（2023）

実施団体
NPO 法人フリースクール地球子屋

作成者
加藤千尋

連絡先